

広島市における統合保育の実態調査 (3)

—平成8年度の調査結果について—

若松 昭彦・船津 守久

(1996年11月15日受理)

An Investigation of the Realities of Nursery Schools

Practicing Integration in Hiroshima City (3) :

Focusing into the Analysis of Investigation of 1996

Akihiko WAKAMATSU and Morihisa FUNATSU

Abstract. 85 nursery school teachers and 73 temporary nursery school teachers working in the nursery schools practicing integration in Hiroshima city were investigated by questionnaires. We examined the troubles and worries of each teachers, and compared these results with those of investigations of 1994 and 1995.

The main results were as follows:

1. Not only some nursing experiences in ordinary nursing schools but also nursing practices with handicapped children were indispensable for nursery school teacher having classes to have enough communication with the parents of handicapped children, and to maintain cooperative relationship with temporary nursery school teachers.
2. These tendencies mentioned in above were recognized in temporary nursery school teachers. Furthermore, the nursing experiences with both children were indispensable for temporary nursery school teachers to make relationship with handicapped and other children, and to raise friendship of all children.
3. It became clear that all nursery school teachers have many troubles and worries about other children in classes. This problem seems to be worth to consider in the future studies.

はじめに

近年、障害を持つ幼児の保育を一般の保育所や幼稚園で行う統合保育の実践が広がりつつある(井田・小山・柴崎, 1992; 清水・小松, 1987)。広島市においても、平成8年度には75か所の保育所で計154名の子どもを受け入れるに至っており、同市は保育所の障害児保育担当保母を対象とした研修会を平成3年度より行っている。そこで、筆者らは平成6, 7年度の研修会に参加した保母を中心として、園が受け入れている子どもの様子、子どもと関わる上での配慮点や悩みなどに関する質問紙調査を実施した(船津・若松, 1995; 若松・船津, 1997)。その結果、クラス担任の保母、障害を持つ子どもを一日4時間担当する加配保母の双方にとって、一般の保母経験よりも障害児保育経験の方が、障害を持つ子どもも含めたクラス運営にはより重要な要因であることが

示唆された。平成8年度の調査結果に基づき、この仮説について検討することが本研究の主な目的である。

方法

1. 調査対象・方法

平成8年度の「障害児保育保母研修会」は、障害のある子どもを受け入れているクラスの担任(以下、担当保母と記す。)を対象とした研修会が、障害児保育経験1年未満の担当保母対象の「初級保母研修会」と、経験1年以上の保母対象の「中級保母研修会」に二分された。開催日、参加人数は、各々同年6月21日、41名と同26日、44名であった。また、前年度より始められた加配保母研修会は同年7月2日に行われ、参加者は73名であった。調査対象は、これらの保母全員である。各研修会当日、研修会の講師である船津が調査用紙を配布し、自由記述による回答を依頼した後、その場で回収した。

2. 調査項目

調査項目は、園が現在受け入れている障害を持つ子どもの人数、年齢、性別、困っていることなどを中心とした子どもの様子、その他に対応に困っている子どもの様子、子どもと関わる上で日頃心がけていることや悩んでいることであり、若松・船津（1997）で用いたものと同一である。また、回答者の保母経験年数と障害児保育経験年数についても同様に記入を依頼した。

3. データの分析

本研究においては、研究目的との関連から調査項目のうち子どもと関わる上で心がけや悩みを分析の対象としたが、他項目の記述からもこれらに該当すると判断されるものは適宜抽出した。

結果と考察

1. 平成8年度担当保母の保育上の配慮点

表1は平成8年度担当保母が日頃子どもと関わる上で心がけていること（以下、配慮点と記す。）について、若松・船津（1997）と同じカテゴリーで分類したものである。経験年数の記入がない無効分を除いた担当保母計82名中、障害児保育経験1年以上の保母は54名おり、うち45名が延べ81の配慮点を記述していた。また、障害児保育経験1年未満の保母28名中20名から延べ33の記述が得られた。

表1を見ると、「子どもの気持ち」、「観察」、「保護者」、「保育者間」では、両群の人数比を考慮しても障害児保育経験1年以上の保母側の記述が多くなっており、「観察」と「遊び」だけに差が認められた平成7年度と異なる結果となった。この理由としては、障害児保育経験1年以上と1年未満の群で、保母経験年数、障害児保育経験年数の平均が各々12.7年と8.4年、1.9年と0.2年（平成7年度）、15.6年と7.3年、2.8年と0.1年（平成8年度）と、両経験年数ともに8年度の障害児保育経験1年以上の群の方が長く、両群の差も8年度の方が大きいことが考えられる。

また、「保育者間」からは、障害児保育経験1年以上の保母の多くが加配保母との役割分担や協力について記述しているのに対して、障害児保育経験1年未満の保母は加配保母と子どもの関係作りから考えていることが分かる。さらに、「子ど

もの気持ち」、「保護者」の記述等も考慮すると、担当保母が障害を持つ子どもや保護者とのコミュニケーションを深めたり、加配保母と協力したりしていくためには、ある程度の保母経験と障害児保育経験がともに必要なことが示唆される。

その他、表1には興味を示さない活動への参加を無理強いせず、加配保母と一緒に無理なく過ごすという記述がいくつか見られる。また、遊びでクラスをグループに分ける、自由に選択して遊べる時間を多くとる、見本を見せたり帽子を出したりして活動を知らせるなどの、これまで見られなかった配慮点も示されている。

2. 平成8年度担当保母の保育上の悩み

表2は平成8年度担当保母の保育上の悩みについて、やはり若松・船津（1997）と同じカテゴリーで分類したものである。障害児保育経験1年以上の保母43名が延べ64、障害児保育経験1年未満の保母26名が延べ36の悩みを記述していた。

表2の「保育者間」では加配保母との連携の困難さの指摘が見られなくなっている。また、障害児保育経験1年未満の側の記述は加配保母の必要性に関係するものである。この結果を保母経験が豊かでも障害児保育経験が少ないと担任として困ることが多いという仮説を支持するものとして解釈するよりも、前述の結果との関連からも保母経験と障害児保育経験双方の必要性から捉える方がより適切ではないかと考えられる。

さらに、「保護者との関係」では障害児保育経験1年以上の保母の計12の記述を見ると、保母経験10年以上が10名、障害児保育経験2年以上が9名となっており、この結果もまた、担任として保護者に配慮する余裕や意識が出てくるためには、ある程度の保母経験と障害児保育経験が必要なことを示唆していると言えよう。

一方、「他の悩み」からは障害のある子以外の子どもへの対応に悩んでいる様子が伺われる。また、「子どもとの関わり等」では障害児保育経験1年未満の群の記述の割合が多くなっており、これは過去2年の結果と一致していた。さらに内容を見ると、聴覚障害の子どもとのコミュニケーション、午睡の問題などが散見される。今後の研修会等では、より具体的なニーズ別、問題別の対応方法が検討されているのかもしれない。

表1 平成8年度担当保母の保育上の配慮点

	障害児保育経験1年以上	障害児保育経験1年未満
子どもの 気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを知り受け止めて、一緒に活動を考え進めている。子どもに問いかけ、考えや気持ちを知る。19-10 ・たくさん共感できるように。24-5 ・内言語をしっかり受け止め発達援助をしていく。29-4 ・心の痛みや気持ちを理解する為、一緒に足で介助。22-4 ・一人一人のその時の心をとらえ対応したい。20-4 ・子どもの気持ちになって接する。15-3 ・気持ちを大切にしながら援助していく。5-3 ・個々の目の高さになり話したり物を考えていく。4.5-2.5 ・なるべく子どもの気持ちを大切に考える。23-2 ・何回か投げかけてみて興味があればする。20-2 ・気持ちをゆったりと受け止める。17-2 ・参加を無理強いしない。17-2 ・ゆっくり話を聞く。10-2 ・子どもの思いを聞く。8-2 ・子どもの気持ち、思いを大切に關わる。19-1 ・一緒に活動は長時間せず、興味が続かなければ別の活動でもよい。13-1 ・心の揺れに共感し、鎮き返す。12-1 ・良くない事をする子どもの言い分をしっかり聞く。8-1 ・他児と出来る事は一緒に、無理な時は無理をせずという気持ちでやっている。2-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・要求や気持ちを受け止め、理解しようと努力する。21-0 ・興味を示さない活動は加配と一緒に無理なく過ごす。3-0
観察	<ul style="list-style-type: none"> ・興味、好きな事一つでも多く発見する。22-3 ・行動の意味を考えるようにする。20-3 ・個々の発達を見極めて、ありのままを認め受け入れる。12-1 ・目立たない子も出来るだけ見落とさないように。9-1 	
触れ合い	<ul style="list-style-type: none"> ・一日に一回はスキンシップ。22-5 ・スキンシップ。22-3 ・関わりを求めている時には出来るだけ何らかの形で接している。20-2 ・スキンシップをしっかり持つ。17-2 ・午睡時、膝枕等をして寝かしている。13-2 ・一日一回は關わる。8-1 ・スキンシップ。7-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌いながらブランコを押ししたり、時々触ってみて目と目が合うような工夫をしている。6-0 ・好きな事を通して少しでも触れ合ったり、他児の存在や待つ経験を。5-0 ・スキンシップは十分にとり、とても慣れている。5-0 ・スキンシップ。3-0
遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係を作るため、好きな遊びを一日に何度もしている。23-2 ・興味の持てる遊びを探している。2-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすなど好きな事を加配保母と一緒に十分楽しませて、ストレスを発散させる。13-0 ・遊びでクラスをグループに分けたりしている。8-0 ・1対1で好きな遊び。3-0 ・好きな事を一緒にする。3-0
言葉かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・朝出来るだけ一人一人に挨拶。22-5 ・一人一人にゆっくり話しかけて、話を聞きたい。20-2.25 ・手ぶり、擬声音、スキンシップを交えて具体的に話しかける。14-2 ・最近遊び込めない子が多く、なるべく大声を出さず、そばで1対1で話す。14-1.5 ・目を合わせて会話する。8-1 ・明るく、会話をしっかりしていく。2-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体についていけるよう個別に声をかける。2.25-0.25 ・具体的にイメージし、目的が持てるように話す。21-0 ・目を見て話す。3-0
ほめる	<ul style="list-style-type: none"> ・いい事をほめる。22-5 ・頑張った事などしっかりほめるようにしている。8-2 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来たねと伝えて自信が持てるようにしている。3-0
メリハリ	<ul style="list-style-type: none"> ・甘やかさず、いけない事はいけないと知らせる。17-2 ・危険な事には真剣に怒る。8-2 ・していい事、悪い事のけじめが持てる関わり方。14-1.5 	<ul style="list-style-type: none"> ・その場でいけない事を知らせる。3-0
笑顔	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で子どもや保護者に声をかける。29-5 ・笑顔で接する。15-3 	

	障害児保育経験1年以上	障害児保育経験1年未満
教育的		
自立	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の流れを整え、自発的に行動出来るように。見守りを多くしたい。24-5 ・どの子ども生活の主体となるように。19-2 ・自分で出来る事はなるべく待つ。17-2 	<ul style="list-style-type: none"> ・依存心が強いので、出来る所は励ます。2.25-0.25 ・危険な事以外は手や口を出さないようにしている。4.5-0 ・出来る事は、時間がかかっても可能な限り見守る。3-0
保育	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本をゆったりと読み聞かせる。24-5 ・経験をたくさんさせている。10-2 ・乳児組で遊ぶ時間を作る。20-1 ・自由に選択して遊べる時間を多くとり、その子なりの楽しみ方で遊べるように。13-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく園に来てくれるように。2-0
他児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的に関わりを要求する事はいけないと思う。困っている時にさりげなく関われる関係を大切にしたい。21-4 ・出来る事を認めたり、出来るようになった事を知らせたりしている。13-4 ・子ども同士の関わりを大切に。10-2 ・他児のモデルになるような態度、関わり方。他児の成長、変化も皆に話していく。10-2 ・他児とのつながりがしっかり持てるように。8-2 ・他児との関わりを持たせながら、見守ったり援助したりしている。16-1 ・遊びの仲介をする。7-1 ・保母、他児との関わり作り。7-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・他児への関心が出てきたので、クラス全体で楽しく遊ぶ、一員として活動出来るようにしている。15-0.3 ・乱暴な子に対し、小グループを作り保育者が媒介している。8-0 ・特別視せず、遅れたりすると皆で呼んだり助け合ったりするようにしている。4-0 ・他児と助けあっていくようにしながらも個別対応を心がけている。3-0 ・外に出たりする時には皆で呼んだりする。2-0 ・集団に入れるようにしている。0-0
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と出来るだけ色々な事を話し合いながら。12-11 ・子育てで支援になり母親の気持ちを安定させるように。20-4 ・保護者とのコミュニケーションを深めながら発達援助を一緒に考える。5-3 ・母親の気持ちを理解する為、話す機会を多くする。16-1 ・園長、加配保母、担任、保護者で話をした。追い付いてほしい保護者の気持ちを受けとめながら、園での様子を伝えるようにしている。12-1 ・出来る事、成長を母親に伝える。7-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るようになった事など話をして、母親とコミュニケーションをとるようにしている。0-0
保育者間	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な援助が出来にくいので、加配の援助で十分に受け止められるようにしている。29-4 ・午睡をしないので、加配を10時～14時にしてもらい、午睡についてももらった。20-3 ・クラスの中の一人として全体的な指導を行い、加配保母に細かい援助をお願いしている。20-3 ・他児に影響される子に対して、問題行動である事を意識づけながら加配保母とも協力して関わっている。14-3 ・日常の世話は、担当の決まった保母がする。23-2 ・加配保母とよく話し合い、役目ははっきり区別して考えながら、一貫した関わり方を心がけている。20-2 ・なるべく全体の中の一人という見方で、特別な援助は加配保母をお願いしている。8-2 ・加配保母も全員一致で取り組んでいる。加配保母がベテランで、安心して保育できる。7-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・加配保母との二者関係になる事から始めていく。5-0 ・加配保母との関係作りから始めている。2-0 ・加配保母に抱きついたり、作った物を見せるといった行動が少しずつ始めている。0-0
園	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体の職員集団も支え合えて素敵。19-2 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・両上肢機能不全の本児が行動しやすい環境を作る。10-10 ・自分が子どもの良き居場所となるように。20-4 ・他児と同じように関わる。22-3 ・パニックの時は気分転換させる。17-2 ・間違えたと思ったら謝る。8-2 ・手伝いを頼む。7-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーに印。21-0 ・障害のある子どもも含めて皆が育っていくように。9-0 ・係を任せている。8-0 ・見本を見せたり帽子を出したりして活動を知らせる。0-0
計	81	33

末尾の数字は、保母経験年数-障害児保育経験年数を示す。

表2 平成8年度担当保育士の保育上の悩み

	障害児保育経験1年以上	障害児保育経験1年未満
保育のゆとり	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的にゆっくり待ってやれない事もある。20-3 ・日頃時間に追われている。20-2.25 ・もっと時間がほしい。19-2 ・最近バタバタして、いらつくことが多い。8-2 ・気になる他児にゆっくり関われない時もある。19-1 ・26名を1人で担任しており、全員をしっかりと見れない。保母配置基準の改善を望む。9-1 ・午後からは十分手が行き届かない。2-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・補装具で立つ練習がなかなか落ち着いて出来ない。15-0.3 ・個別に指示を知らせる必要があるが、時間がなく後回しになりがち。3-0
保育者間	<ul style="list-style-type: none"> ・どの職員にも平等な気持ちで接する事が困難。29-5 ・見る目に差がありすぎてしまう。16-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・加配保育士がいない午後は、障害のある子どもだけに関わっていると、他児が落ち着いて行動できない。また、彼らにもゆっくり待ってやれない。25-0 ・障害児保育についてよく知っている加配保育士に頼り過ぎており、どうしていいのか迷っている。5-0
保護者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉が出ないのに就学前で焦っていて、あいうえおを家で教えている。19-10 ・長時間保育、発達援助の要望が強く、対応を手探りしている。29-4 ・育児能力に問題があり、生活習慣などの積み重ねが困難。対応に困っている。18-3 ・他児の問題行動を真似する子どもを心配している。14-3 ・障害を完全に認めておらず、本音の話が難しい。20-2 ・クラスの保護者への知らせ方、理解の求め方。20-2 ・育児に疲れていたり、子育て支援の必要な保護者への対応。14-2 ・療育センターか保育園かの選択で悩んでいる保護者へのアドバイス。13-2 ・分かり合にくい。12-2 ・就学を控え療育的な期待が大きい。12-1 ・母親がすぐ他児と比較して落ち込む。7-1 ・加配保育士と二人で活動という時があり、これでいいのか、保護者の気持ちはと思う時がある。2-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望により利き手の指導をしているが難しい。1.25-0.25 ・厳しく接している保護者から、保母は甘やかすと苦言を言われた。20-0 ・母親が外国人で、子どもは指示が分からず保育者とのつながりが持てていない。6-0 ・子育てが団寄せ。0-0 ・母親の焦り。0-0
他児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・人と関わりたがらない為か、あまり他児の関心が無い。一緒にテーブルにつく事を嫌う子どももいる。13-4 ・他児が無関心で、私のせいかもしれないと思う。20-3 ・他児が立ち歩く等真似をしたりして、クラス全体がなかなか落ち着かない。4.5-2.5 ・他児への障害の説明、働きかけ。20-2 ・他児との関係。14-2 ・他児との育ち合い。12-2 ・他児との関係作り。20-1 ・他児との関係が作りにくい。7-1 ・聴覚障害の子どもと他児との関わり。2-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・他児を拒む事が多く、結局保母が援助する事が多い。関わる他児が決まっておらず、負担感や優越感のようなものが見られる。9-0 ・遊びの統合保育で悩んでいる。社会性、手先や運動発達の差により、一緒にという事が難しい。8-0 ・他児が必要以上に関わりたがる。その都度一人で出来ること知らせても、やはり手助けしている。4.5-0 ・すぐ泣く子どもを受け止めるのを、他児がその子どもだけ甘えようと不満を持ってしまった。3-0
他の悩み	<ul style="list-style-type: none"> ・園で話さない、一人でつまらなそうな他児に悩む。25-6 ・気になる他児達への対応。15-3 ・運動会等の行事で皆や保護者の期待の中で、その子ども達の見せ場をどのようにもっていくか。8-3 ・しっかりと関わられるよう加配がほしい他児もいる。19-2 ・どんな所を伸ばしていったらいいのか。12-2 ・気になっている他児への対応。8-2 ・統合保育の中で、その子どもをどう育てていくか。19-1 ・どこまで障害の子どもを受け入れるべきか迷う。16-1 ・入院生活が長く社会性が弱い他児の他児との関係。12-1 ・気になる他児達への対応。9-1 ・子どもの興味を活かせる保育の継続が少し難しい。2-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・境界線クラスの他児への関わり方と母親への配慮。適切な援助をすれば、もっと伸びるのではないか。2.25-0.25 ・気になる他児への対応。26-0 ・悩みは多々あるが、今は体ごとぶつかっている。0-0

	障害児保育経験1年以上	障害児保育経験1年未満
子どもの関わり等	<ul style="list-style-type: none"> ・どの子どもにも平等な気持ちで接する事が困難。29.5 ・聴覚障害の子どもとゆっくり人間関係を作りながら気持ちを伝え合うようにしているが難しい。29.5 ・難聴の子どもとのコミュニケーション。24.5 ・30人のクラスで声をかけなかった子どももいて、時々反省する。22.5 ・上肢欠損の子どもへの発達援助。あきらめない気持ちなどの心のケア。22.4 ・部屋に鍵をかけた為かトイレで排尿しなくなった。24.3 ・運動面で差がつき、あきらめてしまうことが多い。他児よりペースが遅く奇立つ。20.3 ・午睡をしない。20.3 ・最近加配が代ったりして乱暴な行動が目立つ。14.3 ・制作活動で自分でできたという満足感を味わえるように、内容を他児と変えた方がいいのか考えている。5.3 ・入園立上で慣れていない、自分が出せていない。23.2 ・時々パニックになり、どの関わりがいいのかいつも手探り状態である。20.2 ・午睡しにくい子どもへの対応方法。20.2 ・遊び込めず、毎日フラフラしている子どもがいる。18.2 ・多動、手づかみ食、排泄への対応。13.2 ・午睡時、寝るのに時間がかかる。13.2 ・時々トラブルで自分の思いを伝えられない時、他児を蹴ったり叩いたりする。10.2 ・自分の接し方がいいのか、いつも不安で色々悩まながら日々過ごしている。8.2 ・多動、集団行動、規制時の奇声、食事中立ち歩き。14.1.5 ・行動を遮られると大泣きする子ども。8.1 ・してはいけない事をどのように知らせ、信頼関係も作りたので叱ってもいけないと当初迷っていた。7.1 ・集団に向かって話をする事聞かない。7.1 ・聴覚障害の子どもとのコミュニケーション。2.1 	<ul style="list-style-type: none"> ・午睡しない子どもに加配の手がとられ、関わりが減った子どももいる。15.0.3 ・ダウン症の子ども言葉がなかなか出ないので、どのように対応していけばいいのか。12.0.25 ・未熟産の子どもが一年下のクラスで過ごしているが適切かどうか。5.25-0.25 ・危険な事が分からず目が離せない。1.25-0.25 ・午睡せず他児にも影響。1.25-0.25 ・周囲に関心が少なく、母親は賢いと思っており、嫌な事等には泣いて逃げようとする子ども。25.0 ・要求をどのように伝えると理解してもらえるのか。21.0 ・初めてで迷いながら接していた事が、ストレスをかけていたのではないか。13.0 ・初めてでどう関わっていいのか。活動についていけない時の対応を聞いて、どうやっていったらいいのか考えている。6.0 ・担任として、集団参加が難しく言語理解が殆どない子どもとどのように関わっていくか。5.0 ・初めて受け持つので、どういう視点や課題で1年間接すればいいのかがよく分からずにいた。5.0 ・接し方が本当に合っているのか時々不安になる。4.0 ・他児についていけない事に対して、どこまで求める事が必要なのか。3.0 ・他児のペースで進めがち。3.0 ・他児への乱暴が多い。3.0 ・苦手な事が自分で良く分かり、自信をなくしている。マヒの手を全く使わなくていいのか。3.0 ・色々な物に関心が無い。3.0 ・次の課題をどのように見つけていくのか。2.0 ・言葉少なく多動、部屋中の物を投げる、トイレ言えなくなっている子どもへの接し方。0.0 ・言語の遅れ。0.0
計	64	36

末尾の数字は、保母経験年数-障害児保育経験年数を示す。

3. 平成7, 8年度加配保母の保育上の配慮点

表3は平成7, 8年度加配保母の保育上の配慮点について、担当保母の場合と同じカテゴリーで分類したものである。平成7年度は加配保母40名中34名が延べ56, 平成8年度は72名中51名が延べ94の配慮点を記述していた。

表3の「教育的」は平成8年度のみに記述が見られている。また、「保育」では先述した無理や強制をしない保育が多く記述されている。ただし、子どもの遊びにしっかり付き合った後でタイミングを見て誘っていくなどの配慮は常に必要であると考えられる。

次に「保護者」を見ると、平成7年度は家庭と異なる方針での保育が述べられているが、平成8年度は保護者との話し合いや協力に関する内容が多くなっている。この結果からは、加配保母にとっても、保護者とのコミュニケーションの重要性を認識していくためには、ある程度の保母経験と障害児保育経験が必要であることが示唆されると言えよう。

4. 平成7, 8年度加配保母の保育上の悩み

表4は平成7, 8年度加配保母の保育上の悩みについて、やはり担当保母と同じカテゴリーで分類したものである。平成7年度は加配保母40名中17名が延べ19の、平成8年度は72名中41名が延べ64の悩みを記述していた。

表4より、研修会も2回目となり悩みの表明の増加が明らかである。若松・船津(1997)でも述べたように、今後は研修会の中で互いの悩みを出し合ったり、それらに具体的に伝えていく工夫が望まれよう。

「保育者間」の記述からは障害児保育経験年数2年以下の加配保母と表2に示した担当保母の意識間のギャップが明らかである(若松・船津, 1997)。また、「他児との関係」では加配保母が担当の子どもと他児との関係に直面している様子が示されている。そして、障害児保育経験のない加配保母の中に担当の子どもにつきっきりになるという記述が2つ見られている。一方、表3の「他児との関係」には担当の子どもと距離を置いたり、他児との仲介役に徹したり等の配慮点があげられている。これらの殆どが、やはりかなりの保母経験と障害児保育経験を持つ加

配保母から出されていることは重要であろう。

さらに、「他の悩み」では担当保母の場合と同様に問題を持つ他児に関する記述が多数認められている。また、「子どもとの関わり等」からは経

験や専門知識の不足を始めとした多様な悩みが見てとれる。この結果からも、前述のように事前に悩みを聞くなどして具体的に対応していくことが必要であると考えられる。

表3 平成7、8年度加配保母の保育上の配慮点

	平成7年度	平成8年度
子どもの 気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・「やりたい」という気持ちを大切に。8-6 ・コミュニケーションをとる。16-3 ・子どもの立場に立って考えられるようにしたい。14-2.6 ・本人の気持ちを大切にしていける。8-2 ・目線を同じにし、話を聞いてあげる。5-2 ・気持ちをなるべく理解し、楽しく遊ぶ。1-0 ・気持ちを受け止める。0-0 ・話しかけてきたら、同じ目線で話を聞く。0-0 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的安定を心がけ共感関係を大切に。10-8 ・気持ちを大切にし、時間をかけてでも話を聞く。14-6 ・自立の為子どものやる気を大事にしている。10-6 ・タイミングをつかんで共感。14-5 ・一人一人の気持ちを大切に受け取り接する。10-5 ・子どもの考え、思いを気にかけてながら。8-5 ・子どもの立場に立って気持ちを汲み取りながら。5-5 ・成功感を大事に。7-4 ・気持ちをしっかり受け止め理解し、よい人間関係を作っていく。3-3 ・気持ちを押し付けず、子どもの気持ちになって。14-2 ・その場その場の気持ちを考え、受け入れる。10-2 ・気持ちを汲んだ対応。4-2 ・負担に思う事があるのかと考えながら援助している。2-2 ・意欲を大事に、引き出した。8-1 ・気持ちを理解出来るように今何をしたいか様子を見ながら接する。0.67-0.33 ・気持ちを察する。3-0 ・子どもの目線で。0-0
観察	<ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶ時、子どもの目の輝きを見つける。5-2 ・朝の声かけで、子どもが返す声と表情に気をつけている。0-0.5 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の原因を考える。0-5 ・やさしく、よく子どもを見て仲良くしていく。19-4 ・反応を見るために色々言葉を変えて言っている。0-0
触れ合い	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンシップ。8-6 ・体の触れ合い。10-3 ・しっかりスキンシップを持って、明るく接したい。6-3 ・楽しい関わり方が出来るようにしたい。14-2.6 ・いつもゆったりした気持ちで接していく。4-2 ・出来る限り受け入れる。0.1-0.5 	<ul style="list-style-type: none"> ・叱った後でしっかり抱きしめる。0-8 ・視線を一日に何度も合わせる。スキンシップ。14-5 ・スキンシップ。12-4 ・子どもの心の居場所になるように。6-3 ・愛情を持って接する。4-3 ・信頼関係をしっかり作る。10-2.5 ・信頼関係。9.3-2.3 ・信頼関係。4-2 ・落ち着いてゆったりと接する。12-1 ・一人一人を大事に。10-1 ・自分が早く慣れ、スキンシップを多く持ちたい。0.5-0
遊び		<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びをする。13-9
言葉かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しが持てるよう「～したら～しようね」とゆっくり話す。8-6 ・目を見て話しかける。10-3 ・どのクラスの子にも声をかけるようにしている。3-3 ・子どもに合った、またはその日の子どもの様子に応じた関わり方、言葉かけをする。3-2 ・次の活動の見通しを持たせる言葉かけ。6-1 ・体を動かして、歌で語りかけをしていく。6-1 ・話をする時には顔を見て話すように心がけている。1-0.3 ・声かけを多くしている。0-0 	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えて部位を具体的に言う。援助しながら言葉と行為を結び付ける。13-9 ・今から何をするか必ず言葉かけをする。0-8 ・ゆったりした気持ちでゆっくりとした口調。0-5 ・見通しがつくよう個人的説明を加えながら生活。12-4 ・目を見て話す。8-2 ・担任が全体に話した事を再度理解出来るよう話す。8-2 ・朝の挨拶を大事にし会話にはならないが話しかける。0-2 ・常に言葉かけをし信頼関係を作る。7-0 ・言葉かけを十分に。3-0
ほめる	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張ったらほめる。8-6 ・何か出来たら大いにほめる。0.1-0.5 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほめる。12-4 ・しっかりとほめる。7-4 ・頑張った事、出来た事などしっかりとほめ、自信が持てる事を増やしてあげたい。2-2
メリハリ	<ul style="list-style-type: none"> ・してはいけない事をしたら、嫌な気持ちを伝える。8-6 ・していい事と悪い事の区別。5-1 ・していい事と悪い事の区別。けじめをつける。0-0 	<ul style="list-style-type: none"> ・躰面は理解出来る範囲内できちんと伝える。13-9 ・危ない事はその都度話して知らせている。11-3 ・父性と母性の両立。0-3 ・一貫性を持った対応。4-2
笑顔	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい目、言葉かけなど表情に気をつけている。5.4-0 ・笑顔で接する。0-0 	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔。12-4 ・笑顔で接する。5-0.5 ・笑顔。4-0

	平成7年度	平成8年度
教育的		<ul style="list-style-type: none"> ・先取りして応じない。13-9 ・会話で単語を失敗しても自然に流して聞く。5-7 ・要求されない協力を慣む。4-2 ・絵カードなど、分かりやすい方法で示す。4-2
自立	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で出来る事を少しでも伸ばしたい。7-7 ・言葉かけを抑えて、自発的行動を待ちたい。15-6 ・一人で生きていける生活の基礎は厳しく、子どもの出来る範囲で出来るよう心がけている。3-4 ・自分で出来る事を少しずつ増やしたい。6-3 ・自分の事は自分で出来るようにしたい。3-3 ・自分で出来るように、頑張る気持ちを大切に。12-2 ・自分で出来る事は時間がかかっても待つ。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でしようとしている時はなるべく見守る。5-7 ・生活習慣が自立出来るようになるべく自主的に活動させたい。9-4 ・なるべく自分で出来るような適切な援助。1-0.25 ・気長に待つ。4-0 ・着脱はなるべく本人にやらせる。4-0 ・行動をゆっくり待つ。0-0
保育	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく楽しい場作り。0.1-0.5 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に応じた無理をさせない保育。19-4 ・設定保育で出来ない事は無理にしない。4-3 ・色々な事に興味を持ち、伸び伸びと活動出来るきっかけ作り。4-2 ・遊びや制作など押し付けにならないように。8-1 ・コミュニケーションを大切に無理のない保育。6-1
他児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・君の先生と言われないよう距離を持って接する。15-6 ・言葉が出始めており、保育を介しての段階だが、他児との関わりを持つように配慮している。8-4 ・他児の遊びに無理に入れようとせず、見守る。16-3 ・遊びの中で他児と接する場面の仲介を多くする。10-3 ・他児との関わりを次第に持たせてやりたい。4-1 ・いつも横についているのではなく、他児との関わりの中で言葉が育つように遠くから気配りをしたい。3-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・他児との橋渡しの役割に徹したい。10-8 ・子ども同士でトラブルを解決出来るように、活動が出来るように仕向けている。14-6 ・他児の中で自然な形で遊べるように。9-4 ・皆とうまく関わって遊べるように。5-3 ・他児との関わりも十分出来るように。10-2.5 ・相手の存在に気づかせる。4-2 ・出来るだけ皆と遊んだりするように。3-2 ・子どものペースを大切にして他児との協調を図る。11-1 ・いろんな出会いをさせてあげたい。4-1 ・他児との関わりが多いので、ルールを重点に置く。6-0.75 ・出来る事は一緒に出来るように。0-0
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・家では厳しくされているようなので、とにかく温かくゆったりと受け入れたい。2-2 ・母親があまり接していない為、スキンシップを大事にする。5-1 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親とのコミュニケーション。19-4 ・親の気持ちを受け入れ、心がけて欲しい事を受け入れてもらうような話し方。12-4 ・母親と連絡を密にする。4-3 ・話し合い、共感。9.3-2.3 ・連絡を密に、小さな事でも出来た事を伝える。4-0
保育者間	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と自分が伝える事に食い違いがないように。10-3 ・まずは子どもの行動を受け入れ、それから皆で考えていく。8-2 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の保育の方法を早く理解して、なるべくでしゃばらないようにする。全体の援助の役割としての立場。8-3 ・子どもに合った指導について担任と常に話し合いながら進めている。6-3 ・職員とのチームワークは良い。4-3 ・担任との協力体制を大切に。3名で協力する事で、安心して午後から帰れるようになった。9.3-2.3
園		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動を目にした時、慌てないように、大声をあげないようにしているが、なかなか難しい。14-7 ・口が先に出てしまうので、一緒に行動したい。7-7 ・手を引いたり呼んだりした時には、すぐに対応。3-4 ・自分自身が楽しい気持ちでいられるように。7-1 ・特別扱いをしない。3-1 ・特別な子どもではなく、皆と同じという保育を心がけた。0.1-0.5 ・難聴の子どもの担当なので、簡単な手話を教えてもらっている。8-0 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害があってもなくても基本的に同じ。8-5 ・心を育てる。12-4 ・他児を押ししたりする事があるので、危険のないよう見守っている。11-3 ・手洗い、着替え等歌を歌いながら。8-2 ・安全面。12-1 ・出来ない事も援助しながら無理なく経験させると喜んでた。4-0 ・外では見守る、部屋では行動を共に。3-0 ・曖昧な答えを出したり自分の考えを出し過ぎない。2-0
計	56	94

末尾の数字は、保育経験年数-障害児保育経験年数を示す。

表4 平成7、8年度加配保母の保育上の悩み

	平成7年度	平成8年度
保育のゆとり		<ul style="list-style-type: none"> ・人手の関係でもう一人いる子どもへの対応が難しい。10-8 ・午後から一人で1クラスの障害を持つ子3名を見、他クラス33名にも関わらねばならず、大変。11-1 ・どんな障害を持つ子に対しても一律に4時間の加配では無理が出てくるのではないかと。11-1
保育者間	<ul style="list-style-type: none"> ・加配として、どこまで手を出していいのか良く分からないまま保育していることがある。7-5 ・午後からは担任が大変なようで、一日加配がつくようになってほしい。12-2 	<ul style="list-style-type: none"> ・加配保母の立場、どの程度障害を持つ子に関わるか、担任との兼ね合い。14-2 ・クラスの問題に悩む担任の手伝いをしているか悩む。8-2 ・ぐずっている時、担当保母が促すとする事も、加配保母には甘えているのかしない。0-2 ・他の保母と話し合える時間をもっと持ちたい。コミュニケーションを積極的にとり、共通理解を図りたい。10-1 ・他の担任の意識、認識。園、先輩、上司、長への希望の伝えにくさ。6-1 ・他児の保育の邪魔にならない為の加配ではなく、今後の障害児保育にとって何か意味のある加配になりたい。6-1 ・担任との関わり方。0-0
保護者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に関する保護者の意向を踏まえて、絵のついた文字で遊んでいるが統けるべきかどうか。10-6 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親は普通に近づきたいが、遊びが足りないように思う本児とのジレンマ。8-5 ・保護者と話す時間がとりにくい。10-1.5
他児との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉的傾向の子どもと他児との仲立ちが難しい。3-1 ・活発でどこに行くか分からない担当の子どもにかかりきりになり、他児の相手をする事が出来ない。0-0.5 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもの先生と理解している他児とのコミュニケーションが弱く、注意しても聞かない事が多い。5-7 ・他児との関わり方等、子どもにとってもプラスになる遊びや生活を考えているが難しい。14-5 ・他児が～君だけいいのかなと特別扱いに思わないか。19-4 ・こぼしたり手づかみ食べが多いので、汚い、気分が悪いと言う他児との関わり方が難しい。7-4 ・接する時叩いてしまうので他児が怯える事がある。どちらの気持ちも汲み取りながらの接し方。6-4 ・場面場面でのちょっとした言葉かけが難しい。5-3 ・他児の～ちゃんは出来ない、遅くなる等の言動。8-2 ・適切な他児への意思伝達。8-2 ・拒否したり赤ちゃん扱いする他児。8-2 ・年下扱いして手を出し過ぎる他児への対応。2-2 ・手助けしてくれる気持ちを大切にすべきか、手助けの程度を指導していくべきか。10-1.5 ・子どもが安定し、クラス参加を試行錯誤中。6-1 ・その子にばかり声をかけていると他児が特別な目で見られるのではないかと。8-0 ・担当の子どもだけの保母でいるのが難しい。7-0 ・他児にも好きな事をしてもいいのではと思われる。3-0 ・子ども同士の関わり方、障害という事が他児には分かっている。0-0 ・自分も子どもも初めてで他児と交えての保育が難しい。つきっきりになるので他児が赤ちゃんだと思っている。0-0

	平成7年度	平成8年度
他の悩み	<ul style="list-style-type: none"> ・担当の子どもよりも、わがままな他児への対応が難しい。1-0 	<ul style="list-style-type: none"> ・園で話さない他児。10-8 ・全体に幼い子どもが増えてきたよう。14-6 ・親が認めていない他児に手がかかり、担当の子どもとの援助の加減が難しい。5-5 ・中間にいる他児が見落とされがち。9-4 ・兄弟児である他児の経験不足を感じる。7-4 ・禁止語が多くなる。14-2 ・母子家庭の子どもが多く、集団に入りにくい保育以前の関わりが欲しい子どもが増えている。2-2 ・自分勝手な他児。2-2 ・自己中心的な他児。10-1.5 ・個別に過ごせる部屋がほしい。10-1 ・両親が聴覚障害の他児の言葉が出ない。6-1 ・問題のある他児への対応。0-0
子どもとの関わり等	<ul style="list-style-type: none"> ・つきっきりにならずに子どもを見たいが、その加減が分からない時がある。14-7 ・補助すると行動範囲が限られるので、時々自由に行動させたくなるが、事故の危険性もある。3-4 ・専門的知識に欠ける為に対応に悩む事がある。3.5-3.5 ・最近よく唾を吐いて遊んでいるが、その理由が分からない。10-3 ・専門的な勉強をしていないので不安。10-3 ・どこまで出来るか、不均衡な子どもの力を知る難しさ。12-2 ・言っただけでも、毎日困った行動をするので悩んでいる。2-2 ・手が不自由な子どもの保育に悩む。0.1-0.5 ・集団内で過ごせる為の手助け。0-0.5 ・調子が悪い時には自分で動こうとしなかったりして、どう接していいか悩む事もある。1-0.3 ・子どもとの心、気持ちの通じ方。8-0 ・最初に何でも許してしまったので、子どもにとって逃げ場の存在になってしまった。0-0 ・どう接していけばいいか経験が全くなく、他の保母に聞いたりしながら接している。0-0 	<ul style="list-style-type: none"> ・行為と目の結び付きが出来にくい。13-9 ・パニックになり物を投げる。13-9 ・生きていく上で必要な部分をどうやって統合保育の中で指導したらいいのか。0-8 ・習い事が多く、最近指しゃぶりが多い。10-6 ・2年間の保育計画を園長、担任と話し合いながら進めているが、達成目標の設定等難航している。14-5 ・気持ちを十分理解してやれない為のストレス。14-5 ・運動会の縄飛びや鼓笛隊にどう取り組んでいくか。11-4 ・専門的な教育を受けた事がいまま保育している。8-4 ・物事の理解、落ち着いて話を聞く事が難しい。11-3 ・専門施設で訓練すべきかどうか。6-3 ・朝泣く事多い。物を投げたりの危険を分からせたい。6-3 ・午睡の見通しが立たない。4-3 ・途中から加配がなくなった他児がクラスについていけないウロウロする。0-3 ・女兒へ抱きついたり手にキスしたりする子ども。10-2.5 ・言葉にはこだわらず関心のある事を一緒にやったらいいのか。3-1 ・些細な事だが、毎日どうしようかと考える事も多い。0.67-0.33 ・機嫌のいい時どこでも発する大きい声に困る。1-0.25 ・接し始めて不安で自信がない。11-0 ・気になる言動があり、試行錯誤中。7-0 ・加配保母としての経験が少なく不安。4-0 ・高い所に登り注意しても理解してくれない。3-0 ・自信がなく叱ってばかり、イライラしている。2-0 ・その場その場の言葉かけが難しい。0-0
計	19	64

末尾の数字は、保母経験年数-障害児保育経験年数を示す。

全体的考察

1. 保育経験の要因

若松・船津(1997)では平成7年度の担当保母、加配保母に対する調査結果を中心に分析し、平成8年度のデータからは保育者間の関係や加配自体に言及した記述のみを抽出した。その結果、一般の保母経験よりも障害児保育経験の方が、障害を持つ子どもも含めたクラス運営にとって、より重要な要因であることが示唆された。換言すれば、保母経験が長くても障害児保育経験が少ないと担任や加配として困るのではないかという仮説が提起された。しかしながら、本研究で平成8年度の

全てのデータを検討した結果、双方の経験の必要性を支持する証拠が担当保母側、加配保母側ともにより多く認められた。ある意味では当然のことではあるが、全ての保母が障害のある子ども、ない子どもとの関わりの経験を積むことが、統合保育を円滑に進めていくための欠かせない条件であることが改めて示されたと言えるであろう。

ただし、本研究では相関をとるなどの数量的分析を行っていないため、今後の研究では調査項目の再検討を含め、この点についても考慮していく必要があると考えられる。

2. 他児への対応

本研究では、担当保母、加配保母の双方が障害のある子ども以外の対応に悩む多くの子どもを記述していた。詳細なデータを得ることを目的として、本来の分析対象以外の記述からも抽出したことが一因ではあるが、船津・若松（1995）でも障害児保育の対象児以外に対応に困る子どもが多数いることが示されており、保育現場における重要な問題であると考えられる。障害の種類や程度ではなくニーズに応じた教育的支援や援助の重要性（山口・金子，1993）が強調されている昨今においては、こうした子ども達への対応も考慮に入れた調査研究や研修なども今後必要になってくると言えるであろう。

文 献

- 船津守久・若松昭彦 1995 保育上の配慮を要する子どもに関する調査研究—広島市における保育所保母を対象として—。平成6年度科学研究費補助金一般研究（B）「特別な教育的配慮を要する児童・生徒」の治療教育に関する基礎的研究（研究代表者 田口則良）研究成果報告書，73—82。
- 広島市 1996 平成8年度新規採用保母研修資料。井田範美・小山 望・柴崎正行編著 1992 基礎から実践までの障害児保育。ひかりのくに。
- 清水貞夫・小松秀茂編著 1987 統合保育—その理論と実際—。学苑社。
- 若松昭彦・船津守久 1997 広島市における統合保育の実態調査（2）—担任及び加配保母を対象として—。広島大学学校教育学部紀要第I部，19，99—107。
- 山口 薫・金子 健共著 1993 特殊教育の展望—21世紀に向けて—。日本文化科学社。